

高山の文化

No.121 2010.9.1 Culture In Takayama



勇壮な「飛騨高山手筒花火」(H22.8.9撮影)

社団法人 高山市文化協会発行



高山市昭和町1丁目 高山市民文化会館内 Tel. 34-6550 Fax. 34-6877

メールアドレス ● mail@takayama-bunka.org

ホームページアドレス ● http://www.takayama-bunka.org

(文化会館の催し物案内はこのホームページでご覧ください。)

文化の形成に想う

「学校行事の文化性を問う」

高山市教育長 中村 健史



二十年
近く前の
ことです。

教頭とし
て勤務し
た中学校

では、毎年秋に「文化祭」が開催されていました。生徒会により、その年のテーマとスローガンが決定されると、各クラスでは、自分たちの集団として高い凝集度を全校に誇示・喧伝すべく、クラスごとのテーマを掲げ、学級展示や演劇に工夫とアイデアをこらしてテーマ具現を図りました。中学ですから、もちろん主体は生徒ですが、当然ながら担任や学年担当の教師もこれに参画し、指導・助言にも熱が入ります。したがって、活動時間の中心である放課後や昼食後の休憩時間を使ってフルに活動しました。

さて話を元へ戻しますが、

当時、飛騨地域の中学校では、こうした形で何らかの文化祭が開催されていたと思いますが、現在、ほとんどの中学校でこうした行事は姿を消しつつあります。また、小学校における学芸会が姿を消してからも久しく、いささか隔世の感もあり一抹の寂しさがあります。

道伝えの日 お月見歌会

作品
募集

(社)高山市文化協会では、さまざまな伝統や文化を後世に継承しようと、高山市文化伝承館において「道伝えの日」事業を行っています。

その一環として、仲秋の名月(9月22日)にちなみ、広く短歌を募集し、「お月見歌会」を開きます。

お寄せいただいた作品は審査を行い、優秀作に賞品を贈呈します。また、広報「高山の文化」にも掲載します。皆さんからのご応募をお待ちしております。

募集作品

一般の部	課題歌「月」	一首
	自由歌	一首
高校生の部	課題歌「月」	一首

応募方法 メールまたは郵送で(必ず住所・氏名・電話番号を記入、高校生は学校・学年も)

締め切り 9月10日(金)当日消印有効

郵送先 〒506-0053 高山市昭和町1 高山市民文化会館内(社)高山市文化協会

メールアドレス mail@takayama-bunka.org

◇「お月見歌会」

(優秀作の発表・講評・賞品授与・歌会)

期日 9月25日(土) 午後1時～

場所 高山市文化伝承館(高山市城山)

も問い直しました。

「広辞苑(第三版)」には、「文化」の意味として『(culture)人間が自然に手を加えて形成してきた物心両面の成果。衣食住をはじめ技術・学問・芸術・宗教・政治など生活形成の様式と内容を含む。文明とほぼ同義に用いられることが多いが、ドイツでは、人間の精神的・内面的な生活にかかわるものを文化といい、文明と区別することがある』と記されています。

再確認したのは、当然に「取り組み自体の活動様式と内容に及ぶ生活そのものとして形成される成果」こそ、めざすべき価値でありました。すなわち、文化祭に向けて営まれる取り組みは、学校内外にわたる「ぬうちある生き方」として生活全般に及ぶ高まりであるというものでした。演劇の素晴らしさや展示大作のできればは、この生活形成抜きには評価し得ないのです。形成される成果は、「生徒の精神的・内面的な生活にかかわる成果である」のです。

翌年、この認識と意識性に基づいた文化祭は、先に開催された体育祭とともに、大いなる成果をあげました。学校行事等を書く活動理念となつて、生徒の自主性・主体性を内発的に育むものとなりました。

子どもであることや大人であることを問うことなく、町内会を単位とする活動における文化・文化性を顕現化し、組織を超える地域または市全域に及ぶ伝統や文化の原点を確認しながら、新文化の創造へも意識やこころざしを巡らせてみたいと思っています。

高山の文化を高めた人々

46

都竹豊治さんを偲ぶ

(故)桜井 幸子

私と都竹さんとの出会いは、大塲間霽江先生主宰の「飛騨短歌」に入会してからです。都竹さんは、昭和二十二年に入会され、若山牧水と親交の深かった福田夕咲先生をはじめ、大塲間先生らから短歌の指導を受けられました。

福田先生から「若いもん」といわれた私たちは、毎月三日に集まる「三日会」に入会し、今寺修三さんや山之上吉信さん、女性はお田清子さん、川上喜美さんらと都竹さん宅で侃侃諤諤（かんかんかくかく）と短歌を論じあいました。振り返ると、戦争で青春を奪われた私たちの青春時代であつたとも言えます。そんな私たちを奥さんのきさ子さんは温かく迎え、陰ながら会を支えてくださいました。

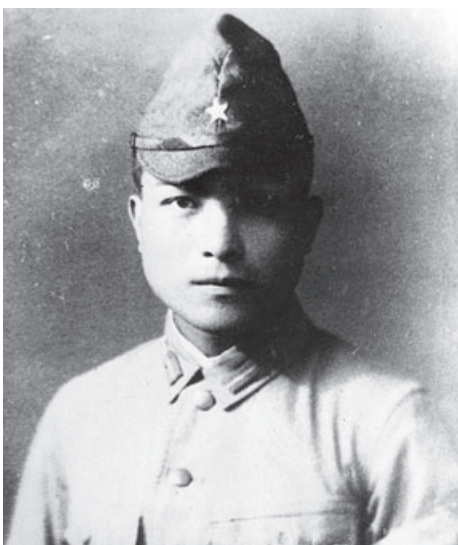


「石の声」出版記念会にて(妻のきさ子さんと)

都竹さんは、陸軍中野学校を卒業した職業軍人でしたが、昭和二十七年、戦後の公職追放をきっかけに「撫石園」を創業されました。都竹さんは昭和三十六年夏、自宅の庭に大塲間先生の碑を建立されました。また、「飛騨短歌」をこよなく愛する私たちは、昭和四十七年春、都竹さんのご尽力により、先生の出身地である丹生川の正宗寺に石碑を建立しました。

「縄縄の機械とめれば夕光の中に埃のしずみゆく見ゆ」

また教師になるのが夢だった都竹さんは、高山や古川などにある十一グループの短歌会の指導を亡くなる一カ月前まで務められていました。厳しい一面もありましたが、的確な指導のおかげで、教え子たちは現在、新アララギなどに入会し活躍しています。「明日からは市となる村の名をとどむ橋を渡りて搾乳にゆく」。これは、昭和五十年に出版された第一歌集「村から町へ」のタイトルとなった歌です。



陸軍の憲兵だったころ

入っていいばいい」という都竹さんは以後、「石の声」など三冊の歌集を出版され、多くの名歌を残されました。最後の歌集「続々石の声」は、仕事を通して歌が多く収められています。「碑を刻む杜の空気が動き出しぬ激しき雷雨のいよよ迫りて」。

都竹さんと私は仲の良い間柄でしたが、短歌の上では互いの主張があり、良きライバルでもありました。病床にあつても原稿用紙とペンを離さなかったという歌友の面影に、次の短歌を捧げ心から冥福を祈りたいと思います。「次の世も良きライバルでいて下さい黄泉への旅の唯に安かれ 幸子」

※桜井幸子さんは、この原稿をお寄せいただいた後、五月二十日に逝去されました。ご冥福をお祈りします。

第13回近代文学館企画展 「郷土の文学碑展」

東山編 その一

平成十六年春、高山市図書館「煥章館」に併設して「高山市近代文学館」が開館しました。

高山市に関わりの深い文学作品を発掘し、作者と作品を市民の皆様に紹介することにより、日常生活の身近なところに郷土の文学がいきづく、そんな社会を目指して開館したものです。

この近代文学館事業のなかで、日頃から郷土の文学資料について調査と研究を進めている(社)高山市文化協会では、年二回「近代文学館企画展」として、文学作品ならび



前回の会場風景

にその背景について展示会を開催してきました。この度、第十三回を迎えることとなりましたが、今までは、詩人の「和仁市太郎」、

文学者で俳人の「瀧井孝作」、詩人であり歌人の「福田夕咲」、俳句を始め文学、絵画、歴史研究等に大きな影響を与えた「小峰大羽」の他に、飛騨に立ち寄り、手の跡を残していた文学者の作品を展示してきました。

今回は前回に続いて故・中舎高郎氏が執筆された「飛騨の文学碑遍歴」の内、東山地域の中から、田中大秀、姉小路基綱卿、加藤歩簫・李充・越翁等の短歌、俳句、詩等を刻んだ文学碑を、写真の他、碑文の解説・建立の経緯・作者の紹介等を説明して、市民の皆様に理解しやすく、より親しみを持っていただける企画としました。入場無料です。多くの皆様のご来場をお待ちしています。

研修旅行のご案内

今年の研修旅行は、3泊4日でカンボジア「世界遺産アンコールワット遺跡」を訪れます。

○日程 10月21日(木)～24日(日)

○行程 ・1日目 高山→中部空港→バンコク→ベトナム→シェムリアップ

・2日目 古代都市アンコールトム観光→バイヨン寺院→昼食(西洋料理)→アンコールワット観光→夕食(古典舞踊を鑑賞)

・3日目 パンテアイスレイ遺跡→マーケット散策とアンコール遺跡群観光→夕食(カンボジア料理)→バンコク(機内泊)

・4日目 ベトナム→中部空港→高山(午前11時頃着)

○会費 145,000円(高山～空港間のバス代は協会で負担)

○募集人員 40名(先着順)※文化協会会員に限る

○申込締切 9月10日(金)※説明会を9月15日に予定

○申込・問合せ先 (社)高山市文化協会 TEL34-6550



アンコールワット

マイコレクション展

出品コレクション募集

パートⅦ

毎回、好評を得ている「マイコレクション展」を十月二日、三日に開催します。現在出品の応募を次のとおり受け付けています。

◇対象とするコレクション

長期間に亘り収集したもの、苦勞して探し求めたこだわり品々、今では手に入れることが困難になったもの、郷土の文化に関連するものなど。

(但し、自動車や大型機械器具・家具・宝石・高級美術品・動物などは対象外とします)

◇対象とするコレクション 各自で収集品の搬入及び搬出をお願いします。特別な事情のある方はご相談ください。

◇申込要領

所定の出品申込書に記入し写真を添付してください。なお、損害賠償保険に加入しますので、収集品の概算価格を明示してください。

◇募集期間

九月一日～二十一日

◇選考

応募点数が多い場合、また出品物の種類が重複する場合は、審査により選考し、その結果を本人に通知します。

◇申込・問合せ先

(社)高山市文化協会(電話 三四一六五〇)

(社)高山市文化協会加盟団体 催事のお知らせ

「屏風 伝統と革新

～江戸から現代まで～展 期間／九月十一日(土)～十二月十二日(日)

主催／光記念館

〔最終日は午後四時まで〕 会場 高山市図書館「煥章館」 一階生涯学習ホール

「岡目一目」

この号が印刷されている頃には、新しい市長が決まっているはずだが、その人は文化的な人であるだろうか？

どこの市長も皆文化人とは限らないが、その地方の文化に理解の深い人であつて欲しいとは誰でも思う。

「ひだ」という音に「飛騨」という字を当てた最初の人はエライと思う。イメージの広がりには「卑田」や「斐太」とは比べものにならない。

「騨」は馬の毛色の青白色に銭形の模様のあるもの、連銭草毛と書いてある。白い馬が飛んでいる。「飛」という字も「飛鳥」や「龍飛」などと共にそれだけで詩情が湧いてくる。失礼ながら「掛斐」という字から何も広がらぬ。

牛でも川でもトマトでも頭に飛騨を付けると良い印象になる。この字を当てた人を「高山の文化を高めた人々」にご推薦申し上げたいと思う。

今日の観光で生きたる飛騨高山に大きく役立っている。基など横で見ていると八目先まで読めるという。先の分からぬ人の世だが、せめて一目先くらいは読めたらと思う。日本一広い市の新市長の下で：

(ガンモン毛筆)

予告

下條アトム・川島なお美主演 演劇「とんでもない女」公演決定!

期日 平成二十三年一月二十三日(水)

会場 市民文化会館小ホール

*

舞台は九州。地方都市の複雑な社会問題を織り交ぜて描



軽妙なトークで楽しいステージに



観客総立ちの中、「心の旅」を熱唱!